



[トップ](#)
[書評](#)
[ニュース](#)
[著者来店](#)
[海外ミステリー](#)
[草原の風](#)
[コラム](#)
[文庫](#)
[新書](#)
[コミック](#)
[本こども堂](#)
[ロングセラー](#)

[グルメ](#)
[クルマ](#)
[ネット](#)
[住まい](#)
[買い物](#)
[求人](#)
[読書](#)
[雑誌](#)
[選挙](#)
[文字](#)

[総合トップ](#) > [本よみうり堂](#) > [書評](#)

『子どもの連れ去り問題 日本の司法が親子を引き裂く』 コリン P・A・ジョーンズ著

43 | [0](#) | [おすすめ](#) | [12](#) | [おすすめ](#) | [411](#) [チェック](#)

評・河合香織(ノンフィクション作家)

ACジャパンのCMの影響で、金子みすゞの詩集が再び売れている。その金子の死因には諸説あるが、娘の親権を巡る争いで憔悴していたとも言われる。

自殺、事件の背後に親権問題が隠されていることが少なくない。しかも、法制の違いから国際問題に発展することもある。多くの国では離婚した夫婦は共同で親権を持つが、日本では母親が親権を持つのが普通だ。このため外国人と離婚した日本人の母親が、相手の同意なく、子を連れて帰国すると、外国では「拉致」と見なされるのだ。

共同親権を前提にしたハーグ条約を批准すればいいのだろうか。否。アメリカ人弁護士の著者は、裁判所だけでは子供の引き渡しに関する実行力が十分でない現状を根本から見直すべきだと主張する。

反対も根強く、丁寧な議論が必要だ。だが私が思いを馳せるのは、自分の子供に自由に会えずに苦しむ父親の存在だ。運動会に変装してまで見に行くのも「君が知らなくても、ずっと見守っていたよ」と子供にいつか伝えたいと願う切ない親心なのだ。

子供にとって、父か母かという選択はない。父も母も、なのだ。(平凡社新書、820円)

(2011年4月25日 読売新聞)



子どもの連れ去り問題 日本の司法が親子を引き裂く

コリン P.A. ジョーンズ / 著 平凡社 / 861円

[セブンネットで購入](#)
[楽天ブックスで購入](#)
[Amazonで購入](#)

[YOMIURI ONLINE トップへ](#)

関連記事・情報

Powered by Fresheye

- 【書評】『震災歌集』 長谷川權著 (5月1日)
- 【書評】『サラリーマン誕生物語 二〇世紀モダンライフの表象文化論』 原克著 (5月1日)
- 【新刊ナビ】『いなり、こんこん、恋いろは。 1』 よしだもろへ著 (4月28日)
- 【新刊ナビ】『群緑の時雨 1』 柳沼行著 (4月28日)
- 【新刊ナビ】『淀川ベルトコンベア・ガール 1』 村上かつら著 (4月28日)

関連記事・情報(発言小町)

Powered by Fresheye

- 【子供】5カ月の子供に絵本の読み聞かせ (4月28日 13:32)
- 【学ぶ】岩波少年文庫 (4月24日 04:35)
- 【学ぶ】小池真理子さんの小説について (4月12日 18:28)
- 【学ぶ】絵本をつくりたい (4月5日 16:38)
- 【話題】温泉、銭湯で読書は非常識ですか？ (3月29日 00:48)